

プレゼンテーション学習 支援システム

大倉孝昭

大阪大谷大学 教育福祉学部



発表の流れ

- 1 . 授業シナリオ
- 2 . 教材の目的
- 3 . 試行結果
- 4 . スキル評価スタンダード
- 5 . 評価項目の検討
- 6 . まとめ



1. 授業シナリオ

1. 半期15回 → ストーリーの明確化
2. 同じ題材の既存プレゼンを評価 → 仮想体験（動機付け）
3. 改善目標の意識 → 目標の宣言・共有
4. 必ず質問する → 参加する聴衆になる
5. 自分達のプレゼンを振り返る → 対面の相互評価に参加



2. 教材化の目的

- （解説 → 既存プレゼンの評価 → プレゼン → 質疑応答 → 振り返り）× 3本
- プレゼン構成要素の理解・納得
- 欠席，準備未了者への対応



「分かりやすい説明」の技術

15テーマ×3パターン



3 . 試行結果

- プレゼン事例を収録・蓄積・公開
- 授業シナリオの試行・修正
- 1回生から訓練



1回生には動機付けが困難
質問（発言）する習慣がない
まねをすること（例示・触らせる）
相互評価に慣れる



4 . スキル評価スタンダード

授業実践力評価スタンダード
（実習ビデオ時間軸評価）



プレゼン評価スタンダード
（プレゼンビデオ時間軸評価）



No.	大分類	小分類	理科授業評価の対応項目
1	1.基礎・基本的な授業態度		生徒との信頼関係を築いているか
2	2.教授活動の構成と展開	1) 個や集団への配慮	
3		2) 説明	
4		3) 助言・指示	生徒の学習状況を把握しているか(1)
5		4) 板書	
6		5) 教材・教具の活用	
7		6) 演技・表現性	
8	3.学習活動の喚起と促進	1) 授業の流れや分節化への考慮	生徒の学習時間を保障しているか
9		2) 発問	
10		3) 子供への発言・行為への対応	思考を促すための支援をしているか
11		4) 学習環境の構成とマネジメント	
12		5) 学習活動への即時的対応	生徒の創意や主体性を促しているか
13	4.学習活動に対する評価	1) 形成的評価	
14		2) 机間巡視	生徒の学習状況を把握しているか(2)
15		3) 学習評価法の工夫	


5. 評価項目の検討

教育における位置付けの再検討

	ビジネス	学校教育
定義	発表者と聞き手のコミュニケーション	?
目的	(1) 聞き手に、内容を正確に理解してもらう (2) その上で、聞き手から反応を得る	外見 話し方 プレゼンの資料
要素	人柄・内容・発表技術	人柄・内容??

iface(アイフェース) 社HPより引用

	ビジネス	学校教育
流れ	1.テーマの決定 時間 目的 聞き手 2.素材集め 3.構成を練る 4.資料作成 5.リハーサル 6.プレゼンの実施 7.振り返り	聞き手に伝えたいことを明確化できるか？ 聞き手の興味・関心に合わせているか？ 教育的配慮の範囲？ 教育用素材が面白くないのは当然か？

iface(アイフェース) 社HPより引用 

8.まとめ

- Moodle 上で評価学習できるシステムを開発
 - 授業モデルを設定し，同一教材で3年間試行
 - 15要素×3パターンのビデオ教材を蓄積
 - 同一テーマに対する他者のプレゼンは効果的
 - 1回生には難しい(ニーズが乏しい)
 - 時間軸に沿って評価する評価スタンダードが必要
 - 本来の目的と学校教育の目的の違い
 - 職業スキルとして確立し必修化する必要
- 